

2025年度

慶應義塾中等部入学試験問題

国語

注意

- 1 指示があるまで開かないこと
- 2 この冊子の総ページ数は8ページです
問題は、2～8ページにあります
- 3 問題用紙の余白は下書きに用いてもよい

【一】次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。(問題作成の都合上、本文の表記を一部改めた箇所がある。)

——この物語の主人公は、吾一少年である。この時、吾一は呉服屋に丁稚奉公(住み込みで働くこと)に出ている。この場面は、吾一が奉公先から実家の母親、おれんのもとを訪れるある一日のことである。——

A
あづき煮て (注1) やぶ入り待つや 母ひとり

いくらか、ちがつているかもしれないが、だれかの句に、こういうのがあったように思う。おれんはその朝、特別はやく起きて、ゆうべのうちに買ってきておいた、アズキを火にかけた。

うちであんを取ったりすることは、B 彼女のような仕事をしている者には、手がかかってたまらないし、それに、からだのほうも、その後、ずうっと思わしくなくて、動くのがたいぎだった。むすこの帰ってくる日だと思つと、吾一の好きなものをこしらえておいてやりたかった。彼女はなんども針を置いて台どころに行つて、たのしそくにナベの中をのぞいた。それから煮えたアズキをスリバチに移して、丁寧にすり、うらごしにかけてしぼり取つた。

「もう、きそうなものだが……」

彼女はあんをこしらえているあいだも、針を持つているあいだも、路地にゲタの音が聞こえたような気がして、そのつど、および腰になつては、入り口のほうをのぞいた。C いつもは、お店のご用でない限り、けつしてうちへ帰つてはならないと、むすこをいましている気丈な母おやではあるが、きょうは吾一の帰りばかり待ちこがれていた。

彼女はとうとう待ち切れなくなつて、路地のそとへ出かけて行つた。板のように突つ張つた、したておろしの (注2) おしきせを着た人たちが、新しいムギワラ帽子のつばで、強い日光をはね返しながら、いそいそと歩いているのも、きょうのほほえましい風景だった。彼女は路地の入り口に立つて、長いこと往來をながめていたが、(注3) 宿さがりの小僧さんは多いけれど、いつまで待っていて、吾一の姿は見えなかつた。

D
「まだ、行つたばかりなので、ことしはおひまが出ないのかもしれない」

そうあきらめて、おれんは E うちへもどつた。しかし、裁ち板の前にすわつても、仕事がいっぱい手につかなかつた。「……ひよつとしたら、病氣をしているのではないだろうか」彼女はそんなことを案じてみたりした。屋敷かくなつた時、

「ごめんなさい」

と言う声が出て、吾一がはいつてきた。しばらく見ないあいだに、すっかり、おとなびてしまつたので、おれんの目もとには、思わず涙が浮かんだ。

「まあ、お帰んなさい。——おつかさんはね、あんまりおそいもんだから、きょうはおひまが出ないのかと思つていたんですよ」

「きょうは日曜でしょう。日曜は朝からおぼつちやんの、した読みのおあい手をするこゝになつてはいるものだから、なかなか出られなかつたんです。ほんとうはね、おつかさん。わたしのような行きたての者にはやぶ入りはないんだつて言うんです。でも、おぼつちやんのおあい手をよくするからつて、きょうは特別に出していただいたんです」

「そう、それはよかつたね、おつかさんはどんなに待つていたか……」

「そう言いながらも、吾一のことばがにくらしいほど、ませてきたので、こういうしつけは学校では、とても覚えられないことと思うにつけ、F 急にいたいたしい気もちがわいてきた。

「それから、これをいただいたんです」

吾一は紙のおひねりを母おやの前にした。

「まあ、お小づかいがでたの」

「ええ、でも、わたし、小づかいなんていりませんから、これはおつかさんに……」

「だつて、おまえ、それはおまえさんがいただいたんだから、おまえさんの好きなものを買つたら……」

「いいえ、わたしは今、お金はいりません。どうか、G うちのたしにしてください」

「まあ、おまえがそんなことを言うなんて……やっぱ、他人さまのところには、行つてみるものね。——そう言つてくれるのはうれしいけれど、でもね、吾一ちゃん、それはおまえさんが働いていただいたお金なんだから……」

「ええ、そうです。わたしが奉公に行つて、はじめていただいたお金です。わたしがはじめて取つたお金なんですから、これは是非、おつかさんにあげたいんです」

「そう、それじゃ、せっかくだから、おつかさんがいただきましょう。でも、わたしがつかつてはもつたないから……」

母おやおひねりを取りあげて、神だなの前に持つて行つた。そして、それをうやうやしく供えると、口の中で何かつぶやきながら、長いこと拜んでいた。

そのころの習慣では、奉公に行きたては、もちろん、給金はないし、はじめの半としは、しきせも出ないのが普通だった。よし、小づかいという名義にしろ、ともかく、吾一の方で、——このちいさい子どもの腕うでから、早くも、^H こういうものがうみ出されたことは、母おやの胸には、ことばに言いあらわせない感激があつた。

おひねりの中は、五十銭銀貨一枚らしかつた。しかし、たとい五十銭のお金でも、むすこが働いて、はじめて取つてきたお金であると思うと、おれん目には、それはもう金銭というようなものではなかつた。人の手から人の手へ、無節操むせつさうに渡つて歩く、いやしいものではなくつて、吾一の血の結晶けつしょうのように、尊いものに思われた。

「吾一ちゃん、さぞ、おなかがすいたでしょう。おつかさんがぼたもちをこしらえておいたから、すぐ、おあがんさい」

「ぼたもち！ そいつは、ありがたいなあ」

ぼたもちと聞いたたら、^I 吾一は、はじめて子どもらしい声を出した。母おやはサラの上にもぼたもちを山のようにもつて、むすこの前に置いた。

「おつかさんが一生懸命けんめいにこしらえたんだよ。——さ、たくさん、おあがり」

「おつかさんも、いっしょにたべようよ」

「そうねえ、わたしもおしょうばんしましょう」

母おやもたすきをはずして、サラの前にすわつた。ふたりは向き合つて、ハシを取つた。

吾一は何よりの好物なので、おかわりをするほどたべた。ふたサラめのハシをつけた時に、彼はどうしたのか、急にハシを休めて、下を向いてしまった。

「吾一ちゃん、どうしたの」

「……………」

「のどにつかえたの」

「ううん、なんでもないんだよ。ちよ、ちよつと、涙が出たもんだから……」

「涙？」

「なあに、なんでもないですよ。きつと、こういうのが、う、うれし涙つて言うんだらうな。……おつかさん、ずいぶん久しぶりだね、こうして、いっしょにたべるのは。おつかさんと向き合つてたべていたら、なんだか知らないが、むやみに涙が出てきて、涙が出てきて……」

「ほ、ほんとうに、いっしょにたべるのは、いく月ぶりかねえ！」

「うちにいた時分は、なんとも思つていなかつたけれど、……やつぱり、おつかさんとたべるのが一番おいしいね」

「そりゃ、おつかさんにしたつてそうだよ。ひとりでたべていたんじゃ、ねえ、おまえ……」

つりこまれて、母おやもあいつちを打ちながら、「彼女は、はつとした。こんなことを言つて、吾一に里ごころを起こさせてはたいへんだと思つた。しかし、吾一の気もちは、そういうところにあるのではなかつた。」

「^K このあいだね、おつかさん。——なんと言つたつけないあ、あれは。そう、そう、ワ、^(注4) ワップルつてものをたべたんですが……」

「それ、何？」

「西洋のお菓子なんだよ。カステラのカシワもちみたいな格好をしたものなんだけれど、……そのあんこがね、ジャムつて言つて、そりゃあ舌がとろけちゃうほどうまいものなんだよ。——でも、おつかさんのこしらえてくれた、このぼたもちは、それより、なん層倍うまいかわかりやしない」

「ほほほほ、まあ、おまえにもお世辞せじが言えるようになったのね。——そのぶんなら、きつといい、^(注5) あきんどになれますよ」

「ううん、ちがうよ、ちがうよ。——いやだなあ、おつかさんは、お世辞せじだなんで」

^L 吾一は本気になつて、母おやに抗議たいぎをした。

親と子が、こんなことばをかわし合うのも、半としにただ一日だけ許された、この日の情景と言えよう。

「お迎え」「お迎え」と、せわしなく走り過ぎる声にまじって、キンギョ売りの明るい呼び声が、路地の中まで響いてきた。(山本有三「路傍の石」より)

(注1) 「やぶ入り」…奉公人が休暇をもらって親元に帰ること。

(注2) 「おしきせ」…主人が支給する衣服。

(注3) 「宿さがり」…(注1) 「やぶ入り」と同。

(注4) 「ワッフル」…ワッフル。

(注5) 「あきんど」…商人の古い言い方。

問一 — Aの表現の形式は何か。もつともふさわしいものを、次の1〜5から選び番号で答えなさい。

- 1 詩吟
- 2 短歌
- 3 俳句
- 4 戯曲
- 5 故事成語

問二 — B「彼女のような仕事」とは、どのようなものだと言取れるか。その説明としてもつともふさわしいものを、次の1〜5から選び番号で答えなさい。

- 1 裁縫の内職をしていて、手先の集中を要するものである。
- 2 介護の仕事のため、他人への気遣いや目配りが求められる。
- 3 炊事をしており、手間のかかる献立を仕上げている。
- 4 掃除の仕事で、家中のみならず家外の環境も観察し整えている。
- 5 おぼっちゃんをはじめ、子ども相手に本の読み聞かせを頼まれている。

問三 — C「いつもは、く待ちこがれていた」とあるが、ここから理解できる母の様子としてもつともふさわしいものを、次の1〜5から選び番号で答えなさい。

- 1 息子が世間知らずにならないように、教育熱心に育てている。
- 2 息子に対しては厳しい態度を貫いているが、一方で子離れできず息子に甘えている。
- 3 息子が奉公先に迷惑をかけず務めきれよう望んでいるが、彼への愛情も隠し通せない。
- 4 息子が奉公に行ってしまったのを嘆き悲しみ、つらい毎日過ごしている。

5 息子が家に帰ってきてまた一緒に暮らせる喜びから、高揚した気持ちを抑えきれずにいる。

問四 — D「まだ、行つたばかりなので、ことはおひまが出ないのかもしれない」の説明としてもつともふさわしいものを、次の1〜5から選び番号で答えなさい。

- 1 吾一が店を出発したばかりなので、到着までにもう少し時間がかかるのかもしれない。
- 2 母親が自分の仕事にとりかかったばかりなので、早くその仕事を進めていかないといけない。
- 3 母親が往來を行ったり来たりして、このまま時間をつぶしてしまっても仕方がない。
- 4 吾一が店に勤め始めて間もないので、まだ休暇が取れないのかもしれない。
- 5 吾一の行いがあまり良くないので、バチが当たってしまったのかもしれない。

問五 — Eにあてはまる言葉としてもつともふさわしいものを、次の1〜5から選び番号で答えなさい。

- 1 わなわな
- 2 いらいら
- 3 しみじみ
- 4 ほのぼの
- 5 すごく

問六 — F「急にいたいたい気もちがわいてきた」のはなぜか。その理由としてもつともふさわしいものを、次の1〜5から選び番号で答えなさい。

- 1 吾一が帰ってきてから、彼がそつけない様子で母親の質問にも冷たい態度を見せていたため。
- 2 お金がなく息子を学校に行かせられなかった罪悪感を持たずにはいられなかったため。
- 3 吾一の受け答えから、ものの言い方やふるまいを店で厳しく指導されていることが理解できたため。
- 4 一所懸命に働いても、自由にお休みを与えてもらえないわが子かわいそうだと思つたため。
- 5 息子にお店のおぼっちゃんのお世話係が十分に務まっているか不安にか

られてしまったため。

問七 — G 「うちのたし」とは何か。もつともふさわしいものを、次の1〜5から選び番号で答えなさい。

- 1 母親が貯める年金
- 2 家計のたすけ
- 3 吾一のお菓子代
- 4 神社への供えもの
- 5 おぼっちゃん学費

問八 — H 「こういうもの」は、母親にはどのようなものとして映ったか。

「〜もの。」につづく形で、二十五字以上三十字以内で答えなさい。ただし、句読点や符号も一字と数える。

問九 — I 「吾一は、はじめて子どもらしい声を出した」という表現と対照的な表現を本文中から二十字で探し、はじめの五字を答えなさい。ただし、句読点や符号も一字と数える。

問十 — J 「彼女は、はつとした」のはなぜか。その理由としてもつともふさわしいものを、次の1〜5から選び番号で答えなさい。

- 1 苦しい生活を離れ故郷に戻りたいという母の心境を、いま吾一に知られては困ると思ったから。
- 2 父親だけがこの場にはいない一抹のさびしさを吾一に思い起こさせたのではないかと感じたから。
- 3 母親が一人のときには、粗末な食事をとって口に糊しているのを吾一に悟られたくはなかったから。
- 4 奉公を辞めて家に戻ってきたという気持ちを吾一に抱かせてはまずいと感じたから。
- 5 子どもと共に食卓を囲む喜びをしばらく忘れていたことに、会話の中で気付かされたから。

問十一 — K 「このあいだね、おっかささん。———」と言ったつけなあ、あれは。そう、そう、ワ、ワップルってものをたべたんですが……」と母親と会話を続けていく主人公の心情や様子の説明としてもつともふさわしいものを、次の1〜5から選び番号で答えなさい。

- 1 カステラにジャムが入ったようなワップルに初めて出会った日のことを思い出し、食べることができた感動と余韻に浸っている。
- 2 ワップルのジャムのうまさはえも言われぬものだが、それよりもぼたも

ちのほうかはるかにおいしいと力説している。

3 ワップルを見たことも食べたこともない母親に対し、その味わいが形容しがたい極上のものであったことをうまく伝えられ満足している。

4 あんこではなく欧風にジャムを入れたかしわもちのうまさをどう表現しているか分からず、言葉が続かないでいる。

5 ワップルの生地は、ぼたもちとは違って何層にもきめが細かく作られているところにおいしさの秘密があることを解説している。

問十二 — L 「吾一は本気になって、母おやに抗議をした」ときの吾一の気持ちとしてもつともふさわしいものを、次の1〜5から選び番号で答えなさい。

- 1 自分が中途半端な気持ちで奉公に出たのではないということをも母親に分かってほしかった。
- 2 ワップルを食べた経験を語るのが難しく、ただだどしくなったことを母親に小ばかにされたように感じ自分自身が情けなくなつた。
- 3 自分はおきんになるつもりはなく将来的に学問を修めるつもりであったが、母親が自分の進路を決めてきたようでも本意だつた。
- 4 自分が将来、立派に身を立てられるかどうかの自信がまだなかったので、母親の言葉に照れて謙遜した。
- 5 母が作ったぼたもちのうまさを伝えてはみたが、母には社交的なうわべでの謝辞だろうと片付けられて立腹した。

【二】次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

(令和六年夏、羽田空港のお茶漬け屋さんにて海鮮茶漬けを食べながら)

「パパ、私、日本に生まれて本当に良かったって思っている」

「A」

「だって、こんなに心の底からおいしいと感じるものを食べることができると、すごく幸せなことだと思ってる」

「本当だね。それにしても、ナギサはいきなり随分と渋いことを言うようになったね。小学校の担任の先生に何か教わつたのか」

「B」。ただ今の気分が最高に幸せだからそう思ったただだよ。それにね、

羽田って世界とつながっているでしょう。今まで外国へ行って食べたメニューのどれよりもこのお茶漬けがおいしいんだもん。本当に日本人として生まれて良かった。パパ、今日はありがとう」

「C 何よりだね。この店に連れてきた甲斐があったよ」

「外国と言えばさ。今朝のニュースでガザっていうところでたくさん子どもたちが亡くなっているって言ってたけど、戦争はいやだね」

「D できれば起きて欲しくないね。ガザもそうだけど、ウクライナとロシアの戦争も終わらないしね」

「パパ、どうして戦争は起こるの」

「E、いきなりどすんと重い質問が来たね」

「F、私たち日本人だけこんなに幸せにしているのいのかなくて、時々思っちゃうよ」

「パパが中学生の時に社会科の先生が、戦争の二大原因は宗教か経済だって教えてくれたんだけど、今回のガザでの出来事もそれが絡んでいるんだ。今回のガザでの出来事の原因は、ハマスというパレスチナの過激派組織がイスラエルの人たち二千近くを、突然殺したり人質として誘拐したりしたのがもとなんだ」

「どうしてそんなことしたの」

「それは話せば長い歴史になるんだけど、G 話すと、今ガザがある地域を含めてパレスチナの人たちが住んでいた所は第一次大戦後イギリスが統治していたんだ。この時期に、約一八〇〇年前にローマ帝国によりこの地を追われていたユダヤ人を大量に呼び戻したんだ。第二次大戦が終わって、国際連合はユダヤ人国家と、二〇〇〇年近くの間そこに住んでいたパレスチナの人のようなアラブ人国家の二つの国家の設立を提案したんだけど、これを認めたくないアラブ人によって第一次中東戦争が起き、パレスチナの人たちは沢山亡くなったんだ」

(ア)

「なんだか他国によって戻された人たちに土地も取られて、その上たくさん殺されてしまったってパレスチナの人たちが可哀そうだね」

「気持ち的にはわかるよね。そう、その感情がもとになって第三次中東戦争の時にハマスという組織が生まれたんだ。ハマスはユダヤ人国家であるイスラエ

ルを否定し、パレスチナに取り戻す活動をミサイルなどを使ってゲリラ的に行う組織になってしまった。それから何回もイスラエルとハマスは衝突してきて、そんな流れでさっき言ったような事件が起きたんだ」

(イ)

「じゃあ、気持ち的にはわかるけど、今回はハマスが悪いってこと」

「それがそう単純ではなく、イスラエルが人質を取り返すために、パレスチナの子どもたちを含むたくさん民間人を殺していることだけを見ると、イスラエルも戦争で民間人を巻き込んではいけないという国際法に違反しているんだ。違反云々というよりもむしろ、子どもを含む民間人がたくさん亡くなっていることはあってはならないことだけだね」

(ウ)

「世界の中で軍隊が強い国が間に入って戦争を止めることは出来ないの」

「アメリカはユダヤ人が多いイスラエルにいろいろと協力しているからとてもじゃないけど中立にはなれない事情があるんだ。逆にハマスはイランの援助を受けているよ」

(エ)

「どうしたら戦争は終わるの」

「そう、ウクライナとロシアのも含めて本当に終わってほしいとパパも心から思っているよ。これはとても難しい問題だけど、世界中の大人が本腰を入れて解決しなきゃいけない問題だと思ってる。思っているだけじゃなくて何か行動を起こさないとね」

(オ)

「でも、パパの話の聞いていると解決は無理っぽいよね」

「パパは基本的に、この問題は武力じゃあ解決できないと思ってる」

「でも、ハマスもイスラエルもお互いに話し合おうという感じじゃないよね」

「そうなんだけど、でも、草の根で話し合おうとしている人たちもいるという記事をいくつか新聞で読んだから、希望は捨ててはダメだと思ってるんだ」

「へえー、それって」

「一つはイスラエルの市民団体「ウイメン・ウエイジ・ピース」(WWP)とパレスチナの市民団体「ウイメン・オヴ・ザ・サン」(WOS)とが、お互いに

行き来できなくなった今でも連携を取ろうと頑張っているよ。紛争地での犠牲者は女性や子どもも多いからね。女性同士で架け橋を築く努力をしているよ」

「そういう活動って、あまりテレビとかでニュースにならないよね」

「そうだね。もう一つはドイツのベルリンで二人で中東料理レストランを営んでいるイスラエル人のオズさんとパレスチナ人のジャリールさんの記事だよ。

今回の件でも二人の間には意見が合わないどころかお互い怒ったり泣いたりする争いがあつたみたいだけど、それを乗り越えて、今、二人はイスラエルとパレスチナの間には何らかの和平が必要だと考えるようになってきているということだよ」

「お互いに、につき親の仇とか子どもたちの仇とかならないところがすごいね」

「言葉で、憎しみは憎しみか呼ばない、って言うことは簡単だけど、実行に移すのは相当な困難がともなうよね。でも、パパは両国の間に入って交渉するのには、実は日本人が向いているかなとも思うんだよ」

「えー、日本人って、いかにも交渉ごととか弱そうだけど」

「日本の文化って、欧米諸国と比べると、イエス、ノーではっきりしないところがあるでしょう。そこに両国が歩み寄れる一筋の光みたいなのがあると思うんだよ」

「どういふこと」

「例えば、宗教一つとってみても、多くの日本人はいろいろな宗教を少しずつアレンジしながら受け入れていっているよ」

「確かに。H お墓参りもするけど、クリスマスも祝うよ。パパとママの結婚式は確か神前式だったよね」

「そうそう、よく覚えていたね。そんな風に、日本人の(注1)アイデンティティーといつても良いようななんでも取り入れてしまう能力が、国際紛争の場面で何とか生かせるといういなと考えているんだ。そして将来、ナギサが安心して暮らしていける世界が作れたら、もう何も心残りはないよ」

「またまた、最近パパはすぐにそうなるんだから。」

「さあ、御馳走様してうちに帰ろう。お姉ちゃんとママがお家で待っているよ」

(注1)「アイデンティティー」…他には代えられない独自性。

問一 A) F) にあてはまるもつともふさわしい言葉を、次の1～8からそれぞれ一つずつ選び番号で答えなさい。

- 1 別に 2 おっと 3 どうして 4 そうだね
5 そうか 6 だって 7 それは 8 まさかね

問二 G) にあてはまるもつともふさわしい表現を、次の1～6から選び番号で答えなさい。

- 1 あまつさえ 2 すべからく 3 おもむろに
4 ようとして 5 つまびらかに 6 かいつまんで

問三 次の文章は、本文中の(A)～(オ)のいずれかに入る。この文章が入る場所としてもつともふさわしいところを、後の1～5から選び番号で答えなさい。

「ならイスラエルの方が悪いんじゃない」
「でもね、イスラエルにも言い分はあるんだ。ハマスの組織は攻撃を防ぐために、わざと病院であるとか学校であるとか避難所みたいな、敵が攻撃すると国際的に批判を受けそうなどころに隠れているんだ。だからイスラエルもそこを攻撃せざるを得ないわけだ」

- 1 (ア) 2 (イ) 3 (ウ)
4 (エ) 5 (オ)

問四 H) お墓参りもするけど、クリスマスも祝うよ。パパとママの結婚式は確か神前式だったよね」で例えとして挙げられているような宗教的行事と関わりのないものを、次の1～6から一つ選び番号で答えなさい。

- 1 初詣に行く 2 イースター祭りを祝う 3 花祭りを祝う
4 花見に行く 5 盆踊りに行く 6 七五三を祝う

問五 I) にあてはまるもつともふさわしい表現を、次の1～5から選び番号で答えなさい。

- 1 少し年とつたんじゃないの 2 真面目に話しろつての
3 長生きしてよね 4 また今度食べに連れてきてね
5 早く運転免許を返納したら

問六 本文を通じて筆者の言いたかったことはどのようなことか。もつともふさわしいものを、次の1～5から選び番号で答えなさい。

- 1 アメリカやEUなどの強力な軍事力を背景に持つ国々が、なるべく早く仲裁に入り、話し合いで紛争を解決すべきである。
- 2 今、他の国を攻撃している国々は、今一度、自国が戦争に民間人を巻き込んではいけないという国際法を意識しなおしてほしい。
- 3 戦争の負の連鎖を断ち切るためには、それぞれの国民がたとえ親や子どもを敵国に殺されたとしても我慢して復讐しないことが必要である。
- 4 日本という国は平和で、おいしいものを安心して食べるができるということを、一人ひとりにもう一度認識してもらいたい。
- 5 世界の紛争を解決するためには武力ではなく話し合いが必要であり、日本人の持つ多くのものをうまく取り入れる能力が役立つかもしれない。

【三】次のA～DとE～Hは、それぞれ異なる四字熟語である。A～Hに入る漢字一字は、後の1～9の□にあてはまる漢字一字の中から選ぶことができる。A～Hにあてはまるもつともふさわしいものを、後の1～9から一つずつ選び番号で答えなさい。

○初めて会ったにもかかわらずA B C Dした。
○文句や愚痴を述べないE F G Hの人になりたい。

- 1 医者□ 養生
- 2 □ 味深長な笑み
- 3 一家□ 持っている人
- 4 □ きちにまさる人物
- 5 □ が置けない仲になる
- 6 彼の発言に□ 点がいった
- 7 環境問題に一石を□ じる
- 8 孝□ のしたい時分に親はなし
- 9 □ るほど頭の下がる稲穂かな

【四】次のア～オの文が日本語の使い方として正しければ1を、間違っていれば2を記入しなさい。

- ア 寸暇を惜しまず学問に励む。
- イ あの人には忙しくてとりつく暇もない。
- ウ 話が煮詰まってきて結論が出た。
- エ 私にはこの仕事は役不足ですが精一杯頑張ります。
- オ 彼は熱に浮かされたように研究に没頭した。

【五】——のカタカナを正しい漢字に直しなさい。

- ア 薬をシヨホウされる
- イ 本の内容にカンカされて生活を改めた
- ウ 外国の文化をジュヨウする
- エ 友達のシユクガ会を開く
- オ 全権をユダねる
- カ 本文の字句のイドウを調べる
- キ ドチャクの文化を研究する
- ク 突然のライホウにとまどう
- ケ 日々、ナイセイする
- コ 期待にコタえる
- サ サイダイもろさず報告する
- シ 彼はバリキがある人だ
- ス 仕事のノウリツを上げる
- セ 物価にビンジョウして値上げする
- ソ ジャケットのボタンを上手にトめる